凌霜（りょうそう）

郡上市の教育理念
【凌霜の心で拓（ひら）く明日（あした）の郡上（ぐじょう）市】
「凌霜の心」＝高い志と不屈の精神・感謝の心

「令和の学校教育」ICTを活用した教育

GIGAスクール構想

GIGAスクール構想とは、先生や子どもたちの力を最大限引き出すことをめざし、そのために教育ICT（情報通信技術）環境の充実を図る取組みです。

具体的には、児童生徒1人に対し1台のパソコンやタブレット端末を整備することや、学校内に高速大容量の通信ネットワークを整備することが挙げられます。

このGIGAスクール構想は、2019年に文部科学省より提唱され、明治時代から続く「日本型学校教育」のよさをさらに発展させた「令和の日本型学校教育」の基盤となっています。

郡上市においても、令和3年度から、市内の全小中学校の児童生徒に1人1台のタブレット端末（iPad）が整備されました。また、各学校では、校内に高速大容量のネットワーク環境が整備されています。

ICTが学びを変える

1人1台のタブレット端末が整備されたことで、授業も大きく変わりました。

例えば、市内のある小学校の算数の授業では、考えを仲間の前で発表する際に、自分のノートをタブレットで撮影して教室にある大型モニターに投影し、それを指し示しながら説明しています。相手によりわかりやすく伝えるために、ICTを活用しています。

大型モニターで説明

市内のある中学校の社会の授業では、自分の考えをまとめる際に、これまで通り資料集から考える生徒もいれば、先生からタブレットに送られた追加資料で考える生徒もいます。中には自分のタブレット端末を使い、インターネットで幅広く情報を収集する生徒もいます。自分の学び方、進度に合わせてICTをうまく活用しています。

資料を収集

進化する郡上市の学び

令和6年度の全国学力学習状況調査では、授業で「ICT機器を毎日活用する」と答えた児童生徒は、県・全国平均よりも高く、タブレットが授業で日常的に使われていることがわかります。

また、郡上市では令和6年度から、小学校3年生以上のタブレット端末で活用できるAI（人工知能）型デジタルドリルを整備しました。

AI型デジタルドリルとは、自動で採点するだけでなく、児童生徒の学習状況や正誤答から理解度を判断し、その子に応じたヒントや問題を提示してくれるものです。授業の中での活用はもちろん、家庭学習でも力を発揮し、学習内容の確実な定着や、苦手分野の克服が期待できます。これまで大切に積み重ねてきた郡上市の教育実践と、ICTを活用した新たな学びをベストマッチさせ、郡上市の学びは進化していきます。

AI型デジタルドリルを活用

学校の外でも活躍 郡上の中学生

8月27日、夏季休業期間中に校外で行われた諸活動で活躍した2名の生徒が教育長に活動報告を行いました。

高鷲中学校3年生の西杉山（にしすぎやま）紗妃（さき）さんは、日本赤十字社愛知県・岐阜県支部青少年赤十字代表団海外（モンゴル）派遣事業に県代表生徒として参加しました。ホームステイや海外メンバーとの交流会等を通して、青少年赤十字活動の一層の普及と発展に貢献されました。文化交流の場面では、郡上おどりを紹介したそうです。

大和中学校3年生の阿葉家（あばか）希美（のぞみ）さんは、拉致問題に関する中学生サミット（政府拉致問題対策本部主催）に県代表生徒として参加しました。拉致問題について学び、拉致問題を同世代、家族、地域の人に自分事として考えてもらうためにはどうしたらよいか協議しました。全体会では横田拓也（よこたたくや）拉致被害者家族連絡会代表からの講話も聴いたそうです。

校外でも活躍する郡上の中学生を頼もしく思いますし、参加して学んだこと、感じたことを学校の仲間にも広げてほしいと思います。

阿葉家さん（左）
西杉山さん（中央）

問 教育委員会学校教育課 67・1468